

# 上地市政の初予算

日本共産党  
横須賀市議団

「積極財政」  
と言うが

「誰も一人に  
しないまち」の

本気度をチェック

上地市長は、市を覆う「閉塞感、停滞感」を打破するため、対症療法型の市政運営を脱却し、将来に向けて「積極投資」を行っていくことを打ち出しました。

そして、まちづくりの3つの方向性は①海洋都市②音楽・スポーツ・エンターテイメント都市③個性ある地域コミュニティのある都市としています。

日本共産党市議団は、国が福祉を削り、防衛費を増大させるなか、市政は市民を守る防波堤となって市民の暮らしを温める予算となるよう積極的に議論をしました。



遊具が新設された「くりはま花の国」にて

## 井坂なおし議員 が代表質問



### 生活保護基準の引き下げは、 貧困と格差拡大ではないか

今年10月から生活保護基準が引き下げられようとしています。井坂なおし議員は、「低所得世帯の生活水準が下がったから生活保護基準を引き下げる」という政府の説明は貧困と格差をいっそう拡大するものではないかと市長の見解を質しました。市長は、「国の判断を尊重する。貧困の拡大につながるものではないと考える」と国の説明を鵜呑みにする答弁でした。

### 市民サービスを削減して、なにが「積極投資」か

積極投資の財源確保の第一が「事務事業等の総点検の見直し」による市民サービスカット。井坂なおし議員は、このようなやり方は市長がいう地域主権の考え方に基づく財政運営なのかと厳しく問いました。

市長はいま必要としている施策への重点配分だと言い訳がましい答弁でした。

### はつらつシニアパスは拡充を

今回の見直しで削減対象となった「はつらつシニアパス」は、高齢者の社会参加と自立支援を目的とし、緊急経済対策として導入され市民に大変喜ばれているものです。高齢者の健康維持と市内経済の活性化に貢献しています。

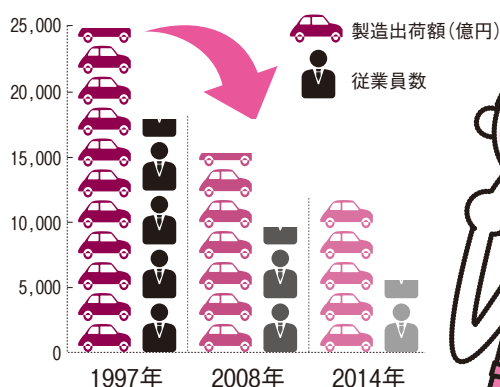
井坂なおし議員は、シニアパスの拡充、少なくとも現状維持を求めましたが、市長は、事業目的に反し通勤に使われていることなどを理由に削減はやむを得ないなどと答弁。井坂なおし議員は引きつづき常任委員会で追及しました。(二面参照)。

### 「横須賀再興プラン」というが、 空洞化を招いた産業の海外移転に規制を

市長は「市を覆う閉塞感、停滞感」の現状からの脱却をめざし「横須賀再興プラン」を掲げましたが、どうしてそのような現状になったのかについては説明も分析もされていません。

井坂なおし議員は、日本の産業の海外移転、空洞化と深く関わっているの、国に対して何らかの規制、対応策を要望すべきと提言しましたが、市長は、国への要望は現実的でないなどと国にもの言う姿勢を示しませんでした。

こんなに減少している  
横須賀の製造業 (工業統計調査から)



くらし・福祉は  
大丈夫？

### 国民健康保険料の引き下げを

4月から国民健康保険制度の県単位化が始っています。これに伴い「保険者努力支援制度」という仕組みが導入され、各自治体に保険料納入率の競争が強いられ、滞納・差押えがふえるのではないかと危惧されます。井坂なおし議員は、生存権を脅かす違法な差押えは断じてやるべきでないとして主張しました。

さらに、国民健康保険特別会計の2016年度決算で約58億5千万円の繰越金が生じたこと等をもって、繰越金を一般会計に繰り戻すことが提案されました。井坂なおし議員はこれらを保険料の引下げに充てるべきだと主張しましたが、市長は繰り戻しが妥当だと述べ、料金引き下げには言及しませんでした。

ヒバクシャ  
署名に

核兵器廃絶宣言都市であり、  
平和首長会議に加盟している市長なのに  
なぜサインしないのか？

ヒバクシャ署名については、代表質問で井坂なおし議員が、総務常任委員会で大村洋子議員がそれぞれ議論しました。

市長は「政府がしっかりと見極めアプローチを含めきちんと整理すべき問題である」と述べ、市長自身の言葉で語ることを避け、サインも拒否しました。

世界は昨年の国連会議における核兵器禁止条約の採択やICANのノーベル平和賞授与に見られるように、核兵器廃絶の流れを大きく広げています。政府に追随し、世界の流れに抗する市長の言動には納得できません。

日米軍事同盟の強化のもとで

### 米軍・市の情報交換会に自衛隊も参加… 横須賀はどんな街に？

今まで米軍と市の二者でおこなってきた情報交換会に自衛隊も入って三者でおこなうようになりました。これは上地市長になって顕著な動きです。市長は施政方針で「米海軍横須賀基地は日米同盟の象徴的な存在」「陸海空すべての自衛隊、防衛大学校も所在する横須賀はアジア太平洋地域全体の安全保障を支えている」と述べました。

安保関連法が施行され日米軍事同盟が増々強化される中で、横須賀市がそのお先棒を担がされているのではないのでしょうか。このようなエスカレーターを断じて認めるわけにはいきません。

## アスベストによる健康被害から市民を守るため 関連文書は30年保存に

肺がんを引き起こすと、数十年前から建材に使われなくなったアスベストですが、さかんに使われていた時代の建物が今、解体の時期を迎えています。

そこで市は、アスベストの含まれた建材を解体する際の条例を議会に提案してきました。

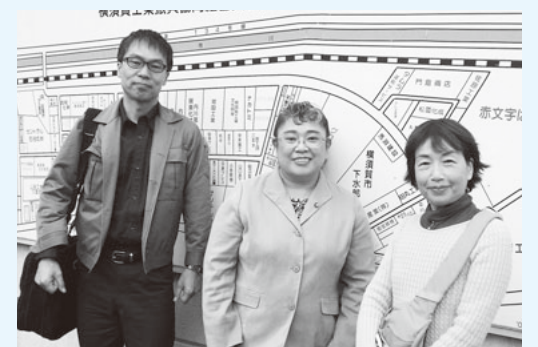
**ねぎしかず議員**は条例の提案を歓迎しつつも、解体時の市への届け出に関連する文書の保存期間を永年にするよう求めました。アスベストの健康被害は吸い込んでから発症するまで何十年もかかることを考えれば当然のことです。

しかし、都市部の当初案は「保存期間は5年」でした。これでは到底短すぎると主張すると、検討するとの答弁に変わりました。

**ねぎしかず議員**は、総括質疑で「重要な公文書は30年を保存期間とすると市は定めている、また、横浜も川崎も保存期間は30年となっており永年に変えようとしている」と再度主張し、環境政策部で「30年保存」とすることになりました。



ねぎしかず議員



アスベストの使用状況を見学するフィールドワークに参加した市議員

## 子どもの貧困対策を 市政の中心課題に

子ども施策は今や「子どもの貧困」を抜きに考えることはできません。市長は議員時代から「子どもの貧困」についてさまざま考えておられたが、実態をどのように把握しているかを質しました。

また、**井坂なおし議員**は「子どもの貧困」の側面から考えて中学校完全給食をどのように位置づけているかを質しました。

市長は、「貧困の実態調査はしていない。以前に**大村洋子議員**から提案があり、2018年度に行う」と約束しました。中学校給食については、子どもの貧困に位置づけをしていない、望ましい食習慣を養うということになりました。

## 国道357号の延進は いますぐ必要な事業か？

都市計画されているが、なぜ30年も着工されなかったのか。その分析もないまま、1千万円余の業務委託費をかけて延伸の終結点をこれからさぐっていくというのです。

**ねぎしかず議員**は、都市整備常任委員会で「過大なものになりはしないか」と質しました。市は「何が一番いいか、委託で検討」と委託待ちの姿勢に終始しました。

道路の拡幅と開発行為中止の2つの請願がコモンシティ浦賀自治会より提出されました。都市整備常任委員会で**ねぎしかず議員**が、本会議で**大村洋子議員**がそれぞれ請願に賛成する立場から質疑・討論をおこない、問題点を指摘しましたが、賛成少数で否決となりました。



大村洋子議員

### 請願

## 自然豊かな住環境は 横須賀の宝

この開発行為は全体では4km<sup>2</sup>を優に超える規模で、一体で開発すれば、6m以上の接続道路や街区公園の整備が必要となります。それをⅢ期に分割し、連続的な戸建て住宅の開発行為としてこの負担を免れようとするものです。このような事業者本意の開発行為を許せば、みどりや景観、住環境が壊されてしまいます。

日本共産党は開発を進める際は「住民に軸足を」と主張してきましたが、今回の請願を通して、「連続するミニ開発」で住環境が脅かされている実態が浮き彫りになりました。

## 公文書管理の 問題も明るみに

この請願を審議する中で、市の公文書管理がずさんであることが露呈しました。開発区域に関わる地区計画が自治会の知らぬ間に変更されており、「地区計画がどうして変わっていったかの経緯は、調べてもわからない」というのです。

**ねぎしかず議員**は、公文書管理法第4条では取り決めの経緯まで記すように定められているのに不明とは許されない、「公文書の管理法にも違反すること」だと苦言を呈し、住民に軸足を置いた対応を市に求めました。

### 住民の

# 命とくらしを守る 市政に



## 介護保険計画改定で保険料がアップ

介護保険計画が改定されました。介護保険制度が始まった2000年の第1号被保険者の介護保険料は、基準額で月額2,900円でしたが、今回の第7期では5,500円との提案がされました。2016年度の市のアンケート結果によれば、回答者数1,177人中「介護にかかる費用が高く、生活が苦しい」が149人、「利用料金の支払いが困難であり、十分にサービスが利用できない」が40人となっています。

**井坂なおし議員**は、これらの方々に対して、市長は具体的にどのような支援をするのかを質しましたが、市長は、周知を図り、丁寧に説明するとしか答弁できませんでした。

## 介護保険 ここが問題 制度の根本的改定が必要

65歳以上の多くの方は年金から介護保険料が強制天引きされており、年金額が据え置かれたもとの負担増は実質年金額の引き下げに等しいものです。

介護が必要な高齢者や一人暮らしの高齢者の方が多い自治体ほど、保険料が高くなってしまっている現在の制度自体に問題があります。

実質賃金も年金も上がらない高齢者のかたへの負担となります。国の制度改正と財政支援を求める声あげていきましょう。

## パリ協定で世界の脱石炭の流れが加速 大気汚染物質による健康被害も心配

(仮称)横須賀火力発電所新1・2号機建設計画に係る環境影響評価準備書等が提出されるとともに住民説明会が開催されました。

**井坂なおし議員**は、「大規模な発電所建設であり本市の環境基本計画、さらには「低炭素で持続可能なよこすか戦略プラン」に大きな影を及ぼすと指摘し、市の環境審議会に諮問して専門家としての意見を答申していただ

くことが大事ではないか」と市長の見解を問いました。

市長は、諮問という形はとらないが、審議会の意見を伺い県知事に提出する市長意見に反映したいと答弁しました。前市長より、前向きな答弁でしたが、建設後、環境基本計画などの変更を余儀なくされてから環境審議会に諮問したのでは、折角の専門的知見が生かされるのでしょうか。

### 陳情

## 「シニアパスの削減はやめて」の陳情に賛成

はつらつシニアパスの対象年齢を現在の65歳以上から70歳以上に引き上げ、さらに購入価格を17,900円から19,600円に値上げする方針を打ち出しました。高齢者の方から大変喜ばれているこの事業や市民サービスを削減することは道理がありません。

高齢者の方がバスを利用することにより、市内経済が活性化する効果はもとより、歩くなどの健康増進効果、社会参加の効果、車を使用しないことによる渋滞

緩和やCO<sub>2</sub>削減など環境負荷の低減効果などが他都市でも高く評価されています。本市でも、もっと利用しやすいように10,000円で購入できるようにすべきです。

年金で暮らす方々から議会に対して「シニアパス補助経費増額と高齢者向け事業へ利用者の意見を聞いて進めてほしい」旨の陳情が提出されました。**井坂なおし議員**は陳情に賛成しましたが、他党派からの賛成がなく、不承承となりました。



井坂なおし議員